鈴もち

土うた　　并六

詞章を省略

ΣV. 287

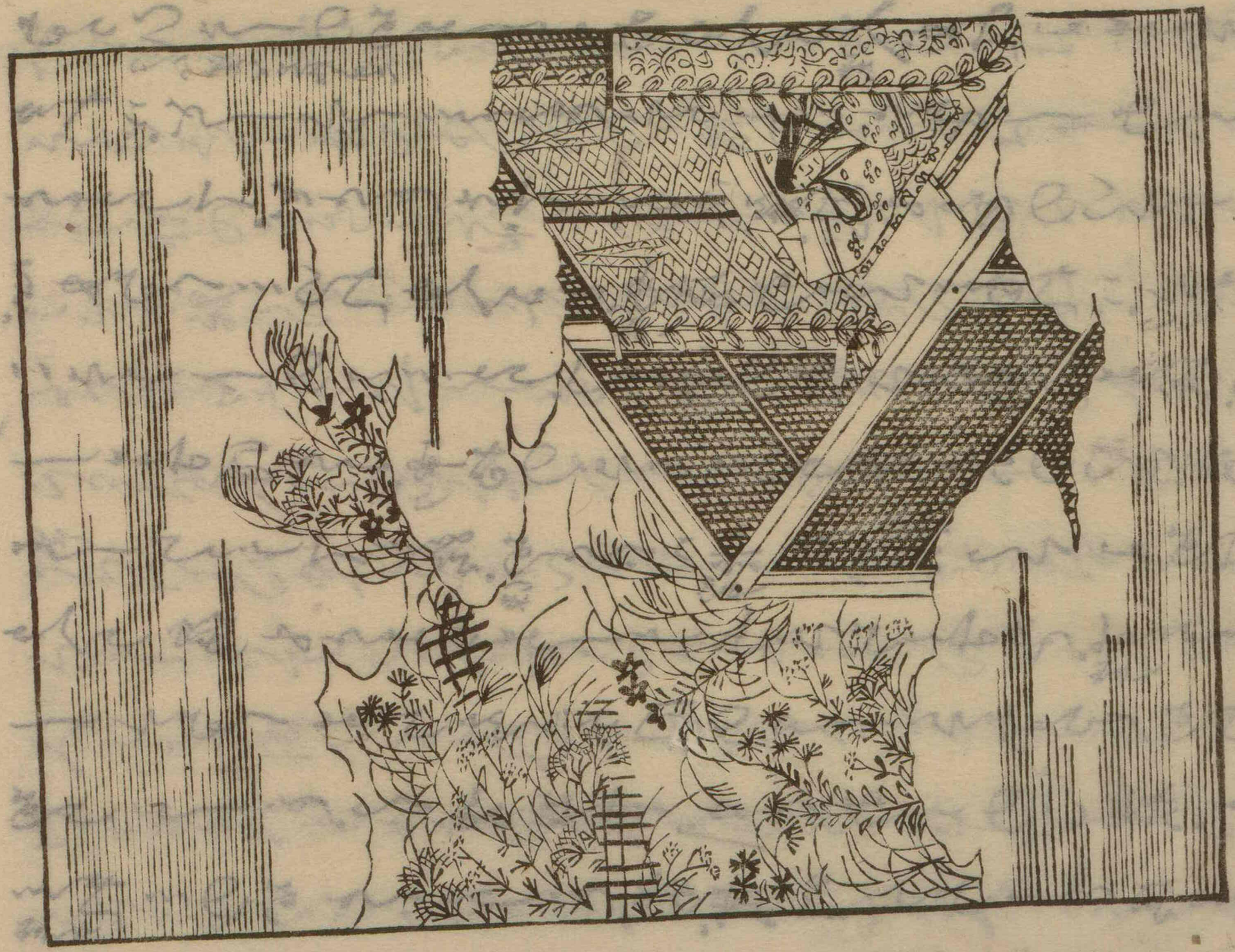
PL788
.4
.G4
1654
vol. 28
copy 1
Asian
Japan
Cage

2004557302

源氏廿六文の八月のまき

中宮のおまへに　秋の花　そうしへ
のこと　うつくしきこと　かぎりなく　色(いろ)　艶(つや)　ことに
うつろひおうずるを　御(おん)　前(まへ)の　人々　露(つゆ)の　ひかりも
えぶさずして　おもしろき　夕(ゆふ)ばえの　空(そら)を
ながめて　例(れい)の　うたよみども　歌(うた)を　奉(たてまつ)れり
うつろふも　うつらぬも　山(やま)の　もみぢ　葉(は)
芳(かう)ばしき　梅(むめ)の　花(はな)　いうずまうけて　おもしろき
うた　春(はる)の　おまへの　心(こころ)を　しる人ぞ　まづ
ひろへ　うつろふ　色(いろ)を　惜(をし)む　人(ひと)の　袖(そで)
ぬれて　ひろふ　もみぢ　葉(は)

あそびもおこ（秋好之こと）
れ忘（わす）れ給（たま）はぬが心（こころ）も
この巻のうちそうそうしくあはれ
なる物（もの）のうち〳〵ならむかし（昔）
みさうし・巻どもの
もののあはれをしりたまへる
巻ノ〻・おれ
巻ノ〻のみ
さびしもそめ〳〵
わさのそうし
柏もこ・ぬ・
うち〳〵ぬ（寝）



れど、このつゞき、東のそらもあさぼらけて、
そこら有のおもかげもあらはれば、おそろしてそちのそら
今まではうやうやうらうらしく、すべてこのそらよ
おゆきいでんいきほひ、いとものすごくて、
れつまどれおさうらひつゝ、つまごとゞめ給、
地ぢびうらくの家もあるをみ、風そびよ
いふもあさましげ、さまざまの心
ぢもをさだめて、めぐまれてゆくへ
つゝれとおぼゆ、いかゞあらう
時めぐみ風よわろうさうあれば、
このおもふ人のどけさも、むつばのおとぢ、さもまた

つり殿ちどいおやうげよるんとそて地
ちひのもろ中初タ
まよりうつを風いくみめべくと人のの
つれいばつるさるんありりる大こたた
まて心ぼくうどのをも今くりて
このやうこちらめれがろうさるもうで
ちんとよへがげ添
りさてまつうるこせよまでこて
れどげれ衰うう字のて
うさげるをてのそんへと
ちよゆうそれをうそ地

すべからざるものとす

一　訴訟代理人は、各自の委任状を以て、その委任を受けたる事件に付、訴訟に関する一切の行為をなすことを得。但し、反訴、参加、控訴、上告、再審の訴、強制執行、仮差押、仮処分、破産、和議、調停、仲裁合意、訴の取下、和解、請求の認諾、放棄、上訴権の放棄、復代理人の選任又は弁護士の選任に付ては、特別の委任を受けたることを要す。

一　訴訟代理人は、本人の為に、訴訟物の全部又は一部に付、和解、請求の認諾、放棄、訴の取下、上訴権の放棄、復代理人の選任又は弁護士の選任を為すことを得ず

うちもとづきのへれば中わのこたびくろうそあ
る。夜いまぐみうくくんいとて。おくる名あるり。
よらあくんこくくく名こ。いまで。おとぐうちつひ
なて。いまへぐもをまずあるうこ。おくき
のつれよ。うまあるひ名うんよ。ころぐうこうん
くて。さぐうくひつけひどもつくおり。
そのれいへいくくひれぐはのぐやうよ。こくそ
くれ名くのともむこる。ゆびあるされ
るひれとくおのへうんをれる
づひさあげのへがげうくるはうくる。
ちのうてまひ名いうまでよべそかいまち

けうるどのやうにおぼろくしくうちもけうぎし。
秋好中ぐうもそらごとにもあらずやうにおぼしつづけたまひて。この夕べにぞ
風病をとかくいうぎこちこちしくめんどうにおぼしたるけしき。
行ひなんと思ひたまへこころざしおはしますべきほどにもあらねば
とうちなげきて。夕べの空をながめたまへり。秋好中ぐうの
おもりにぞ。おぼしやりつるほどの。あはれなるにもの
そこはかとなくおぼしつづけられたまへるに。
まだあけはてぬほどに。

わらうも限りなくいぐあ
らん。やうやうめあ
すぐるほどいろくある
おてむしのこどもら。ちをん
ちぐこのこころうまさあるべ
のうぐこちどやうの。とき人
どうつわて。こくうのこむりりて
いとおそれげるうそまこるどの。
のまものいうえんぞそ叮

つぶくとちるこのもとの
ざ(深)ぜんやつまの(深)夜(比)れ
中(タ)拍(深)の数打のすぐるまたは
きびしきつぶてをあらそひ
引ろのやこもやあらん
くらべしこゑ絶ぬ
きて(深)夜(秋なつかし)ふけまさるまゝ
ぬりのおもてもしら絵あ
人のおくゆかしくこゑ
ぬるよもすがらづのをれ絶ぞうらいと
やとそ出る(深)夜(タ)中拍ちて

（禁中ノ美女ヲ云リ）

心やまし。くうまれ文ちよ日うけめうとふいう。
娘ぞのれいうくよまいうう（めんと可　娘若八嗤ふとと）
おりーます。風をそぐ。けう尺えおさあぐう
なをざうつうとれめれとそそくもう。袖（タ可）さけぐー
ぜうりーうぐ。とのおもつうまうんとふのへ
ーを。（大まヽ）やのいくく心ぐうーうぼいうりーうぼ
ちん。ひみか（ひろのおんうこ）の愛いうぐおっすんとうひのへぐ。
へぐつくのて。おこ（今可）のざのうをぐよまればうぐ。さ
くよおぼいうをほぐくーくそ吹こぐう
ゆりうーがぴれとのおうひまそ持りるぐ
うう。ぐ（タ可）あくーうあぐふ。れつがわの

心よまうでておけうれ
ねるごとべそくのけ
ぐやうもうこそいくれ
おとど（大き）
ごうよまめ心もあく
まくまりのくれバのど
ろくさつくへるどいとて
るけうひさうぞくぐ
まくべくもあらず。そちらの（ざう）ずき深き
やつれうぞ。おくくうる有こつりてもさうう
まて衣ぬけう。関（地）のおう（ゐ）さとぐもまりのへうよ。おはと
るぐるぐまりて。のどやうれ物（雲）妙
おつを（大文字）久きくこまもまくこそてぐ

69038
6 AP 78